

| <b>イギリス共同ゼミ<br/>「行き交うまなざし—古と今、東と西」</b> |  |
|--|--|
| 日時                                     | 2009年3月15日(日)～22日(日)   |
| 会場                                     | ロンドン大学 SOAS (イギリス、ロンドン市)   |
| 参加者                                    | 高崎みどり (お茶の水女子大学教授)、菅聡子 (同教授)、和田英信 (同准教授)、<br>伊藤さとみ (同准教授)<br>江澤美月、大戸温子、川原塚瑞穂、西端彩、星野裕子、李南錦<br>(以上、本学博士課程学生) |

お茶の水女子大学とロンドン大学との共同ゼミは3月中旬から下旬にかけて行われた。われわれ一行がロンドンに滞在した一週間は、雨の多いロンドンには珍しく、毎日好天に恵まれた。穏やかな春の光の中、空港と市街地の往還の際、タクシーの車窓から目にした桜は、東京に先駆けて満開であった。

今回の共同ゼミは、伊藤さとみ准教授による‘A Contrastive Analysis of Japanese and Chinese Comparative Construction’ と題された公開講演に始まった。

また研究発表は、Visual Culture, Literature, Linguistics, Mothers and Stars on Page and Screen, Writing and performance beyond the archipelago という五つのセッションに分けて行われた。こうしたスケジュールとプログラムの編成は、発表テーマが相互に関連し、活発な議論が行われるようにとの、Japan Research Center 主任の Dr. Angus Lockyer のはからいであったが、そのもくろみ通りに、いずれのセッションも活発な意見の交換が行われ、充実した共同ゼミになった。

今回の共同ゼミにおいて特筆すべき点は、ゼミ発表の本数が14本と多くかつ充実していたこと、また伊藤准教授の講演もそうであったように、そのうちのいくつかは英語によるプレゼンテーションであったことである。テーマの多くは日本およびそれに関連する分野であったが、それを英語等を用いることによって国際的に発信していくことは、将来さらに求められるであろう。今回はその最初の試みとして、今後の共同ゼミの運営・開催にとって貴重な経験となった。

最後に SOAS と Japan Research Center の全面的な協力を得たことによってこの共同ゼミが成功したことを記し、学期末のお忙しい中、貴重な時間をさいて推進して下さった Angus Lockyer 氏に深甚の謝意を表したい。

【文責：本学准教授 和田 英信】



ロンドン大学校舎前にて



授業風景